

2021年4月

新型コロナウイルス感染症に係る本学の対応について
～活動状況・感染予防対策・入構制限措置等～

東京聖栄大学

I 活動状況について

1 授業・教育活動

令和3年度前期の授業は対面を基本（科目全体の5割程度）として実施いたします。この場合、教室における座席等の間隔を広げるなど、密集状態とならないように配慮し、感染防止に留意します。講義科目については、一部を除いてオンライン授業（オンデマンド配信型も含む）で実施します。また、実験・実習科目はクラスを二つに分けるなど、感染対策を講じて行います。

なお、学内で対面授業を受講する際は、以下に注意してください。

- ・各教室に手指消毒液を設置していますので、入退出時に使用してください。
- ・机等を消毒したい場合は備え付けの設備消毒液をペーパータオルに含ませて使用してください。
- ・換気により教室内の温度が変化する場合がありますので、各自で衣類による温度調整をしてください。
- ・ランチルームを使用する場合は、黙食（私語は禁止）とし密状態にならないように分散して使用してください。

2 研究活動

感染拡大防止のため、マスク着用や在室人数制限など研究環境に十分留意したうえで、学内での研究活動が可能です。ただし、研究室利用の際は十分な距離（最低1m）を確保したうえで使用してください。

3 課外活動

感染拡大防止に留意したうえで、大学が許可した活動に限り対面活動を可能とします。（感染状況を鑑み当面は中止とします。）

なお、オンラインで代替できる場合は、オンライン活動を積極的に活用してください。行事（大会参加など）を実施する場合も、必ず大学に相談をしてください。

4 窓口業務

法人事務局・大学事務部は感染防止に配慮しつつ通常通りの時間帯で業務を行っています。（カウンターには飛沫防止用アクリルパネルやビニールシートを設置しています。）

5 施設貸出

教育・研究目的で、教室等の貸出しが可能です。利用にあたっては、利用者が十分に間隔を確保し、消毒換気及びソーシャルディスタンスの確保に留意してください。

6 学内会議

教職員は、感染拡大防止に留意した上で、対面会議を実施することができます。ただし、オンライン会議または文書会議も積極的に活用してください。

II 感染予防対策について

1 本学の感染拡大予防対策

安心して施設設備を利用いただけるよう、清掃・消毒作業、換気強化、飛沫防止対策等を中心に可能な限り対策を講じています。

① 清掃・消毒

- ・建物の入口及び建物内各所に手指消毒液を設置しています。
- ・教室やトイレ、多くの人が触れる場所を含め、建物内を定期的に清掃・消毒しています。

② 換気

- ・各教室は窓・ドアの開放による換気をしています。
- ・換気のため、温度・湿度ともに快適な環境が保てないことがありますが、自身での調整をお願いします。

③ 飛沫防止

- ・学内各所の窓口に飛沫防止のためのアクリルパネルやビニールシートを設置しています。また、各教室内の教卓にも飛沫防止パネルを設置しています。

④ エレベーターの利用

- ・エレベーター内は、密になりやすいため可能な限り階段を利用してください。
- ・エレベーターを使用する場合は、定員を2名までとします。

⑤ 行動履歴の記録の推奨

- ・万一、陽性者や濃厚接触者として特定された場合に、自身の行動履歴を確認できるよう、各自のスマートフォンや手帳等に、行動履歴を記録しておくことを推奨します。
(少なくとも過去2週間の間に出席した授業、利用した施設、食事やその他の行動を共にした友人等)

2 感染予防のためにできることを励行

<毎日の検温>

- ① 毎朝、検温して体温確認をしてください。(健康観察記録は毎日つけましょう。)
- ② 37.5度以上の発熱・風邪の症状、咳・息苦しさ・倦怠感等呼吸器症状、味覚障害・嗅覚障害がある場合は登校せずに、学務課に連絡してください。

3 学生・教職員自身の体調がすぐれない場合

学生・教職員が新型コロナウイルス感染症に関する検査を受診した場合

- ① 医療機関等において新型コロナウイルス感染症に関する検査を受診した際は、学生は学生支援センター又は学務課、教職員は総務課へ連絡してください。
- ② 当該の学生、教職員は、検査の結果に応じて、保健所又は医療機関からの指示された期間は、大学構内に入構できません。
- ③ 学生は、授業欠席等の対応については、学務課へ相談してください。

4 日常のコロナ対策等について

国の新型コロナウイルス感染症対策分科会から、次の「5つの場面」において、感染リスクが高まるとされています。

可能な限りこれらに該当する場면을避けることで、自身への感染を防止するとともに、家族や友人等の健康を守ることに繋がると考えられます。日常生活を過ごすうえでの参考としてください。

「場面① 飲酒を伴う懇親会等」

- ・飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- ・特に敷居などで仕切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- ・また、回し飲みや箸などの共用は感染リスクを高める。

「場面② 大人数や長時間におよぶ飲食」

- ・長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- ・大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

「場面③ マスクなしでの会話」

- ・マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- ・マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- ・車やバスで移動する際の車中でも注意が必要

「場面④ 狭い空間での共同生活」

- ・狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- ・寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。

「場面⑤ 居場所の切り替わり」

- ・仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- ・休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、感覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に教居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

